

〈国語科〉 5年

「大田区学習効果測定」結果の分析

- ・全般にどの観点においても目標値を上回った。全国正答率よりも上回っている。しかし前年度正答率と比べると、約2ポイント程度下回っている。
 - ・「読むこと」の「物語の内容を読み取る」では、目標値を約11ポイント上回り、登場人物の様子や気持ちを読み取ることができていることが分かる。
 - ・言語についての知識・理解・技能は、正答率が高く漢字の読み書きは概ねできている児童が多い。
- 〈関心・意欲・態度〉
- ・多くの児童が意欲的な態度で学習に臨んでいる。本を読むことを好む児童が多い。
- 〈話す・聞く能力〉
- ・自分の考えを伝えることや、友だちの意見を聞くことに意欲的な児童が多い。しかし、中には自分の考えを発言することに抵抗がある児童もいる。話の意図をとらえて聞くことが少し足りていない。
 - ・話の中心や、互いの考えの相違点や共通点を考えながら聞くことに個人差が多い。
- 〈書く能力〉
- ・3場面での構成の文章を書くこと、書こうとすることの中心を明確にして書くことはできている。

重点課題

- 〈関心・意欲・態度〉
- ・読書では、読んでいる本の種類に偏りがあるので、本のジャンルを広げることが課題である。また、読書量の個人差が大きい。漢字や言葉の習得意欲に個人差がある。
 - ・発言では、児童一人一人が進んで自分の考えを発言しようとする態度を育てることが課題である。
- 〈話す・聞く能力〉
- ・伝えたいことを明確にし、整理してから聞き手を意識して、相手に分かりやすく話すことが課題である。
 - ・相手が何を伝えたいのかを考え、要点をまとめながら聞くことが課題である。
- 〈書く能力〉
- ・段落の続き方に注意しながら、指定された長さで文章を具体的に書くことが課題である。
 - ・作文用紙の使い方の理解に個人差がある。
- 〈読む能力〉
- ・問題文章などを読み取ることにも課題がある。
- 〈言語についての知識・理解・技能〉
- ・基本的な漢字の書きやまちがえやすい送り仮名のある漢字の読みの定着が課題である。

授業改善策

- 〈関心・意欲・態度〉
- ・毎週の読み聞かせや学校図書館の活用、読んだ本を紹介する活動を通して、読書の幅を広げたり、意欲を高めたりしていく。
 - ・授業の中に少人数での話し合いを積極的に取り入れ、発言する機会を増やす。進んで自分の考えを発言しようとする態度を育てたり、どの子も無理なく発言できる発問を考えたりする。
- 〈話す・聞く能力〉
- ・「何を伝えたいのか」をはっきりさせるために、場合によっては伝えたいことをメモしてから話すよう指導する。機会を見つけて日常的にメモをとる習慣をつけていく。
 - ・話の意図を中心に聞き、またお互いの意見の共通点や相違点を意識するように指導する。
 - ・ペア学習を積極的に取り入れ話すこと、聞くことの機会を増やす。
- 〈書く能力〉
- ・学習カードなどを工夫し、作文や感想文、新聞などを書くときには、知らせたい事柄の中心を明確にし、順序や構成などを考えて書くように指導していく。特に作文指導では、接続語を適切に使い、段落の続き方を意識して書くよう助言する。はじめ・中・おわりの構成を常に意識させる。・児童が書きたいと思うこと（行事・何かの出来事）があったときには、自分の思いや考えを限られた字数内で書く機会を与える。
- 〈読む能力〉
- ・要点を抜き出したり小見出しを付けたりして、時間的な順序や事柄の順序に沿って注意深く文章を読むように促す。要旨を考えるように促す。
 - ・登場人物の気持ちや様子が読み取れるように、それに関わる言葉をチェックさせたり、抜き取らせたりして、根拠を明確に説明できるよう指導していく。
- 〈言語についての知識・理解・技能〉
- ・漢字の繰り返しの定着を図る。テストやテスト直しを行う等、繰り返し練習する機会を多く作る。

